

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会会議録

日 時 平成30年7月13日（金）午前10時～11時10分
場 所 健康長寿センター 1階保健センター
参加者 推進委員会委員14名（欠席3名）
保健福祉部 田代部長、社会福祉課 板橋課長、宇賀神課長補佐
社会福祉係 磯係長、大貫主査
社会福祉協議会 山崎事務局長、中村地域福祉課長、細川地域支援係長、
柴田主事

1 開 会

2 あいさつ

- ・委員長
- ・事務局代表

3 地域福祉計画・地域福祉活動計画の委員による全体評価

(1) 評価の進め方の説明

【事務局】

- ・時間も限られており、全体の評価が出来ないと困ってしまうので、目安として1時間程度を評価の時間として進めていきたいと考えています。ここからは橋本委員長に進行をお願いします。

【委員長】

- ・大きく3つの基本目標があり、1つの基本目標ごとに20分程度で評価を進めていきたいと思います。今回の委員による全体評価にあたり、委員の皆様事前に評価していただいた結果をまとめた資料があり、例えば、基本目標については○が何個、施策の方向性についてはBが何個と、委員の皆様の評価を集計してある。この後、皆様に全体評価として、施策の方向性についてはA B C Dの判定、基本目標については◎○△▲の判定をしていただくこととなります。今回の全体評価は、A B C D及び◎○△▲と、平成29年度の取り組み度合や進捗度を測るための一定の物差しとなるが、この判定だけでは、今後市や社協が活動すべき事柄について具体性に欠けることかと思われます。そこで、委員の皆様から事前にいただいた全てのコメントと、更に私の指示のもと事務局が作成した、全コメントを集約したダイジェスト版がある。その他、追記すべき点はこの後の評価の中で発言いただきたい。その他事務局から補足があればお願いします。

【事務局】

- ・本日、事前に皆様からいただいたコメントと、更に、そのコメントを集約したダイジェスト版があります。本日の会議での評価と合わせて、このコメントについても、市

や社協の担当部局にフィードバックし、福祉を向上させるための施策に反映していただきたいと考えています。また、フィードバックした事柄について、担当部局の考えや、どの程度実現できた等については、来年度の会議で報告をしたいと考えています。なお、今回の評価結果及び委員の皆様からのコメント並びに会議録については、後日、市と社協のホームページに公表し、その際には、委員の一覧表も併せて公表するので、予め承願いたい。また、評価等の公表にあたり、各コメントについては、どの委員からのコメントであるかは無記名とさせていただきます。

【委員長】

- ・評価の進め方及び評価の公表等について説明したところだが、ここまでで何かご意見等がありますか。なければ早速評価に進んでいきたいと思う。

(2) 評価

①基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

【委員長】

- ・まずは、基本目標 1 「誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり」についての評価を進めたい。お配りしてある「委員の評価集計及び総合評価」をご覧ください。施策の方向性 1 から 3 については、委員の皆様からいただいた評価を客観的にみると、全て B の「おおむね達成」という判定になることかと思われま。また、基本目標については、○の「おおむね順調だが、不十分な点もある」の判定になると思われま。委員の皆様いかがでしょうか。

まず、施策の方向性 1 「誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実」については B 評価が 11 名いるので、施策の方向性にたいする評価は B としたいと思います。同じように施策の方向性 2 「地域福祉のニーズキャッチの充実」と 3 「福祉サービスの充実と権利擁護の推進」も B 評価としたいと思います。ご意見がある方はお願いします。それでは、基本目標 1 の基本目標に対する総合評価ですが、「おおむね順調だが、不十分な点もある」ということで○としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

→異議なし

ありがとうございます。先ほど、1つの基本目標ごとに20分という話がありました。

まだ時間がありますので、ご意見等あればどうぞ。

現時点ではご意見が無いようですので、次の基本目標 2 に移ります。

②基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

【委員長】

- ・施策の方向性 1 の「生活環境の充実」が、B 判定が 11、2 の「防災・防犯体制の充実」は B が 12、3 の「地域での居場所づくり、活躍の場づくり」は B が 12、最後の 4 「地域における見守り体制の充実」が、B が 8 というようになっています。他の

判定もありますけども、一つ一つ皆様の意見を確認していきたいと思います。

施策の方向性に対する評価ですが、1の「生活環境の充実」がBが11票あるので、B評価としたいと思います。2の「防災・防犯体制の充実」もBが12票あり、これについてもB判定、3の「地域での居場所づくり、活躍の場づくり」に関してもBが12票あるので、B判定。4の「地域における見守り体制の充実」もBが一番多いのでB評価としたいと思います。

次に右側に移りまして、基本目標にたいする総合評価は○の「おおむね順調だが、不十分な点もある」と結論づけたいと思います。

最後にコメント・意見はもらうことにして、進めたいと思います。

③基本目標3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

【委員長】

- ・施策の方向性1の「お互いを理解し、尊重し合える環境づくり」はB判定とします。2の「地域福祉活動の担い手の育成」についてもB判定が11、3の「地域でのつながりづくり」もB評価14となっています。従ってB評価としたいと思います。右に移って、総合評価は「おおむね順調だが、不十分な点もある」の○に結論づけたいと思う。委員さんの意見はいかがでしょう。それでは、これで評価は終わったわけですが、皆様から多くの意見・コメントをいただきました。コメントがこの計画を充実させるポイントになろうかと思っています。この場で改めて、話をしたいということや補足があればお願いしたいと思います。

【委員】

- ・基本目標1の施策の方向性1について。今、進めている公設公民館ごとの相談窓口についてですが、窓口の在り方の検討がなされていない部分があると思う。ここが今後計画の重要な課題になっていく。例えば、公設公民館で福祉的な相談ができるということが、どれだけ地域の方に知られているのか、どんな相談を受けてくれるのかを住民の方にほとんど理解されていないと思う。そこら辺のことを評価の中で書きましたが、計画も2年目になるので庁内でプロジェクトを立ち上げて、どのような役割を公民館に持たせるのかを検討しても良いと思う。今のところ、社協の地域支え合い推進員が各公民館に配置されるようになってきているが、それが住民の方にはほとんど理解されていないのではないかとということもありますし、実際公民館に行った時にどんな相談にのってくれるのかを今のところ検討されていないと思う。那須塩原市は地域包括支援センターが8カ所設置されているが、そこの役割分担ですとか、国が進めている我が事・丸ごとの施策では子どもの相談や障がいを持っている方の相談など、ワンストップで受けられる窓口が求められている。既存の地域包括支援センターや役所の相談機関や今検討している公設公民館での身近な相談窓口、そ

の他の相談機関などの全体像を早めに示してあげないと、市民に身近な相談窓口相談に来てくださいということが言えなくなってしまうと思う。この辺が委員さんの中でもC判定がいくつか出ている要因なのかと思います。

【委員長】

- ・今、大石委員から公設公民館の位置づけ、特にワンストップの窓口になるべく早急にプロジェクトを立ち上げて検討したほうが良いという意見がありましたが、どうでしょうか。

【委員】

- ・ハロープラザにも地域支え合い推進員がいるが、シニアクラブで活動している時に、活動の場に来て、いろいろなことを説明してもらい助かっている。縦のつながりや横のつながりが出来ている。細いパイプでも強くしていくと言いますか、こちらからこういった方と関わっていくこと、待っているだけではなくて、前に前にいったほうが良いと思います。

【委員長】

- ・市の新庁舎の市民懇談会があった時に申し上げたのですが、建物ありきだけでなく、ソフト面も大いに検討していただいて、公設公民館の在り方も検討してほしいと伝えてきました。それでは、基本目標2について意見等お願いします。

【委員】

- ・公共交通の問題に対しては、庁内でも検討をされていて具体案が出てきているのかなと思います。ここで特に指摘したいのは、施策の方向性3の「地域での居場所づくり、活躍の場づくり」のところ。計画の策定段階から感じていたところで、障がいを持っている方々への理解に課題があるということが浮き彫りになった。そこを市としてどのように進めていくかも柱になってくると思います。高齢者の居場所づくりや百歳体操の場の充実などが内部評価にはあったが、今までと同じようなやり方でどこまで施策が進むのか疑問を持っている。足利市で障がいを持っている方のサロンを何年もかけて作ったということも見聞きしているので、そのようなところがあっても良いと思っています。

【委員長】

- ・高齢者のサロンは市内でもだいぶ充実してきたと私も感じています。多くのコメントをいただいていますので、そこを補足する意見でも良いですのでどうぞ。

【委員】

- ・全般的にD評価が出てしまったことについての説明をもうちょっと丁寧にしてくれると、今後このように進めていきたいということが伝わると思う。私は子どもたちを預かっている身として、基本目標2の「地域での居場所づくり、活躍の場づくり」「地域における見守り体制の充実」について話をしたいと思います。那

須塩原市では市をあげて子どもたちを見守る体制を作っていただいて、とてもありがたいと感じています。それと同時に不安なことは、一時期の盛り上がり比べて、あの頃頑張っていた方が高齢化してきて、これからリタイアしてきた方とのタイアップ、接続するところが課題なのかなと感じている。

大山小学校は那須特別支援学校との交流があり、小さい頃から福祉の心や理解が得られる機会に恵まれている。そのようなことが今度のオリンピック・パラリンピックに繋がってくるのではないかと思います。また先日も社協の方に来てもらい、車いすや点字体験をしています。大山小学校だけでなく、全体的にそういった体制づくりが出来たら良いなと感じています。

地域における見守り体制の充実のところではC判定、D判定も多く見られる。この点に関しては検証が必要なのかなと思います。

【委員長】

- ・D評価に対する分析が必要なのではないかという点に関して事務局から答弁はありますか。回答があれば後日にでもお願いします。

基本目標の2-4の部分に関してC、D評価が多いという話がありました。市には自治会が217あります。先日、生活課から自治会で見守り活動をしているところは51に過ぎないということでした。全ての小学校区で見守りはしています。それはPTAなどがやっている部分もあるので、自治会での活動も充実させていければと思います。

それでは最後の基本目標3についてご意見をお願いします。

【委員】

- ・施策の方向性1の「お互いを理解し、尊重し合える環境づくり」に関してですが、これが策定段階で一番上に上がってきたということはこれが重要視されているということだと思います。これが先ほど言ったような障がいを持った方への理解ということだけではない。例えば市内に外国にルーツがある方が2,000人位いる。言語や文化の違いで困る場合がある。そのような方との交流、つながりを作ることも必要で、今、高齢者の一人暮らしなどの方に対しての見守りをしているが、外国にルーツのある方やその他困りごとがある方とのつながり作りというところへ拡大していくことも必要かと思っています。

次に担い手の育成というところですが、高齢化もしてきて、次の世代をどう育成していくか、アプローチをしていくかが重要になってくる。その点に関して、社協のボランティアセンターが今年度強化されることや市民活動センターが開設されたことで支援体制は充実されつつあるのかと思います。一方で中身的なところで、若者や高齢者の中でも退職したばかりの方などに対象をあてて、プログラムを作ることも必要だと思う。ここらへんはボランティアセンターや市民活動センター、生涯学習課などの横のつながりを作っていければ良いのかと思います。

【委員長】

- ・その他、ご意見がなければ、全体を通して意見を頂戴したいと思います。

【委員】

- ・先ほどから基本目標ごとに一つ一つ意見をいただいていたのですが、挙げればきりがないくらい意見はあります。今回、評価が今までのように内部評価だけではなく、初めて外部評価・市民評価を受けるということになったわけです。内部評価を見ると、本当にこれはB評価で良いのか、課題はこれだけ残っているよねというところが多いかなと思います。どうしても私たちが評価するときに主管課の評価に引っ張られてしまう部分が多く、甘い評価になってしまうと思いました。評価をする側としてももう少し共通認識が必要かと思います。

あと、今回の進め方は今までの評価方法に比べて斬新的なやり方をしようとしているのかなと思っていましたが、今回の評価の仕方では限界があるのかなと思いました。実際に評点をつけるコメントを書くにしてもヒアリングもないし、資料も足りない。制度的にどれだけ委員側が熟知しているかによって、評価がどこに行くかということになる。ある程度分かってはいるが、新しい避難行動要支援者制度など知らないものがあって、それに関わっている市民に個人的に聞き取りをしたときに多くの課題は見えてきた。委員としてヒアリングなどをした上でもう少し評価をしたいと思いました。

また、全体で流れていくのではなく、3つの目標に合わせて、少人数で合議しても良いと思います。あと、始めに1時間程で全体を話すと聞いていたので、一つ一つ話していたら時間が足りないし、1項目ごとにみれば、委員がどの程度、理解して評価できているかどうか疑問がある。評価の仕方でも数が多いB評価で進めていったが、そこでディスカッションをしても良かったと思います。これでは、今までの評価と変わりが無いという印象がある。本当に市民評価でいきたいのであれば、もっと事業の説明やヒアリングの機会がほしいと感じています。市民評価を入れたことは大きな一歩だと思うし、まだ最初なので、次に向けて検討してほしいと思います。

【委員】

- ・私は、コメントは書いたが、評価は記載しなかった。早乙女委員が言うように自己評価に流されてしまう。自己評価を見てではなく、実績等を見て判定するやり方などでも良いと思う。

【委員長】

- ・次回に向けてのやり方に関しては事務局と検討していきたいと思います。

【委員】

- ・先ほど、大石委員からの話でボランティア育成の話があったが、シルバー大学が人気で退職後にいく人が多い。以前も社協の局長さんが話をしにいったと聞きましたが、今もそのようなことはありますか。

【事務局】

- ・ 8月にシルバー大学北校の開校式があります。9月の閉校式の時にボランティアセンターが出向いて、その際にブースを設けて、こういったボランティアがありますなどの紹介やマッチング等を行いたいと思います。

【委員】

- ・ シルバー大学は県がお金をだしているのですが、個人ではお金はあまりかからないのですが、その分地元に戻ったら地域に還元してくださいと言われる。私の地域でも多くの方が手伝ってくれています。

【委員】

- ・ 早乙女委員とは同意見ではありません。大田原市では来年度から地域福祉計画を見直すので、策定している段階で、40名の委員を集めて、2回集まっている。2回ともグループワークで小項目ごとに話し合っ、それを全体で共有していくというやり方をとっている。策定段階でできるだけ多くの方に関わってもらうことで、その方たちも関わっているという意識になってくるとと思います。確かに物理的な制約や手間もあると思うが、今後進めていく中で合議制や丁寧に検討していくことを考えても良いと思います。大田原市の会議でも討議すると評価が低めにでるので、その傾向はあると思います。

【委員長】

- ・ 次回の評価に向けて、事務局側でも本日の内容を踏まえて、検討して行ってほしいと思います。

4 その他

【委員】

- ・ 今回の評価を評価したままにせずに、委員からの意見を各課に渡して、次年度の参考にしてもらって、PDCAサイクルにあてはめて行ってほしい。また、この場をどうという評価の場にするかは、委員がしっかり計画を熟知して評価を行えるかというところも必要になるかと思います。

【委員】

- ・ コメントが資料の全コメントにも載っていないものもある。
→それに関しては確認いたします【事務局】

【事務局】

- ・ いただいたコメントに関しては漏れの無いように関係部署にフィードバックしていきます。その際には関係部署に自分の部署に対しての意見を把握し、何ができるのかの検討、次年度にそれに対して何が出来たのかを考えてほしいということを伝えていきます。

【委員】

- ・ 先ほど、評価は難しいという話がありましたが、私も同じように感じました。ただ、

やらなければ始まらないのではないかということで私なりに評価をしたので、正確な評価は出来ていないのではないかと思います。評価はかなり苦勞しました。

【委員】

- ・評価の今後の活かし方ですが、コメントや評価は公表するのだと思います。推進委員が関係する方々に周知するとか、例えばしなすケアネットで進捗状況を報告するなどして、進めていければ良いのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

5 閉 会